

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓「自由と規律」のもと、人権尊重に徹した、真に国際社会に通用する「明るく、たくましく、心爽やかな人間」を育成する。

1. 夢・目標を主体的に見つけ、進路実現に向けて積極的に取り組む生徒を育てる。
2. 知的好奇心が旺盛であり、自ら考え学ぶ姿勢を持った生徒を育てる。
3. 集団の中での義務と責任を認識し、集団の一員として貢献する意欲のある生徒を育てる。
4. 他人の立場や周りの人の気持ちを考え、行動できる生徒を育てる。

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成

(1) 「主体的・対話的・深い学び」を通じて生徒の主体性、積極性を育み、学力向上に取り組む。

ア 学校としての「生徒に育成したい資質・能力」、「めざすべき生徒像」について、全教員で共有し、実現への方法を明確化する。

イ 学力向上委員会を中心に相互授業観察、研究授業などの計画的実施、授業アンケートの効果的活用など、学力向上に組織的に取り組み、ICT機器を活用した効果的・効率的な授業についても研究を進める。

ウ 令和4年度の次期学習指導要領全面実施に向けて、その主旨を生かすと共に、生徒の希望進路実現に対応した特色ある教育課程を編成する。

※学校教育自己診断（生徒）における授業満足度の肯定的回答（H30 57%、R1 58%、R2 68%）を令和5年度まで65%以上を維持する。

2. 夢と希望を持ち、進路実現に積極的に取り組む生徒の育成

(1) 生徒の希望する進路の実現に向けて、計画的な進路指導体制を確立する。

ア 3年間を通じた継続的かつ計画的に進路指導に取り組み、大学・短大、専門学校および職業などについてキャリア教育を行う。

イ 3年間を通じた計画的な講習の実施により、早期から進路実現に向けて努力させる。

※実力考査の結果の分析を行い、教育支援クラウドサービスの活用などを活用し継続的な進路指導を行う。

※学校教育自己診断（生徒）における進路に関する情報提供の肯定的回答（H30 70%、R1 74%、R2 82%）を令和5年度まで80%以上を維持する。

(2) 「総合的な探究（学習）の時間」やHR活動を通じ、人権教育、キャリア教育等を行うことにより、自らの在り方、生き方を考えられるようにする。

※学校教育自己診断（生徒）における人権について学ぶ機会の肯定的回答（H30 77%、R1 74%、R2 86%）を令和5年度まで80%以上を維持する。

(3) グローバル人材の育成

ア グローバル人材を育成するために、海外修学旅行を継続すると共に、授業や特別活動を通じて、グローバルな視点や姿勢を身につけさせる。

※生徒向け修学旅行アンケートにおける満足度の肯定的回答（H30 97%、R1 93%、R2 95%）を令和5年度まで90%以上を維持する。

3. 安全安心で魅力のある学校づくり

(1) 生徒の規範意識を醸成すると共に、個々の生徒への支援体制を強化する。

ア 朝の職員連絡会やSHRを通して、生徒の状況を把握、教員間で共有し、望ましい生活習慣、生活規範の確立に向けた指導を行う。

イ 教育相談体制を充実させるとともに、合理的配慮を充実させ、生徒や保護者そして教職員も安心して学校生活を送れる体制を作る。

ウ 互いの違いを認め合い、「ともに生きる」精神を育成し、学校に来るのが楽しいと感じる環境を作る。

※1月末段階での遅刻（H30 4,200件、R1 3,676件、R2 2,381件）を令和5年度まで3,300件以下を維持する。

※学校教育自己診断（生徒）における「先生は悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答（H30 69%、R1 70%、R2 77%）を令和5年度まで75%以上を維持する。

※学校教育自己診断（生徒）における「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答（H30 73%、R1 74%、R2 77%）を毎年1ポイント引き上げ令和5年度までには80%にする。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己肯定感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。

ア クラブ、文化祭や体育祭などの生徒の自主的な活動を活性化させるために、仲間と協力して内容の充実をめざすよう教職員が支援する。

※学校教育自己診断（生徒）における「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答（H30 66%、R1 63%、R2 75%）を令和5年度まで70%以上を維持する。

※学校教育自己診断（生徒）における「体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答（H30 50%、R1 49%、R2 59%）を令和5年度まで55%以上を維持する。

(3) 生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう保護者との連携および環境の整備を行う。

ア 保護者との連絡を密にし、生徒が安全・安心に学校生活を送られるようにする。

イ 美化活動等の環境整備

ウ 「防犯及び防災計画」を点検し、天災や火災、侵入者などの危機管理体制を充実させる。また、保健所や学校医との連携を深め、新型コロナウイルス感染症に係る対応の充実を図る。

※学校教育自己診断（保護者）における「家庭への連絡や意思疎通」（H31 64%、R1 59%、R2 75%）を令和5年度まで75%以上を維持する。

※学校教育自己診断（職員）における「事故・事件等に迅速・適切に対応」（H30 78%、R1 82%、R2 88%）を令和5年度まで85%以上を維持する。

4. 地域・保護者と連携した学校づくり

(1) 広報活動を活性化し、本校の取り組みを中学生や保護者、地域に発信する。

ア Webページおよびブログを定期的に更新し、本校の取り組みを地域・保護者に発信する。

イ 本校で実施する学校説明会をさらに充実させると共に、外部の学校説明会などにも積極的に参加する。

※教育支援クラウドサービス登録者（H30 78%、R1 66%、R2 100%）の在籍者に対する割合を100%とする。

(2) 地域との連携に取り組む

ア KEYS（貝塚警察署との連携した活動）等のボランティア活動を継続発展させる。

イ 地域の学校等との連携を活発に行う。

(3) 保護者向け進路説明会の実施および保護者への進路情報の提供

ア 保護者向け進路説明会の内容を充実させ、保護者が参加しやすい説明会を企画、実施すると共に、進路情報を積極的に発信する。

※学校教育自己診断（保護者）における進路に関しての情報提供（H30 56%、R1 55%、R2 57%）を毎年1ポイント引き上げ令和5年度には60%にする。

5. 教職員の資質向上と意識改革

(1) 個々の教員が学校運営に参加する意識をもって業務にあたる。

ア 運営委員会を中心としたミドルアップダウン型組織とし、校内での情報共有、意思統一の経路を明確にして、組織目標の達成を行う。

イ ICT機器を効率的に活用し、さまざまなデータの共有・情報共有を行うと共に、事務作業等の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する。

(2) 校内での教職員研修を積極的に行うと共に、外部で実施される研修等の内容を校内で共有する。

ア 教職員の資質向上をめざした教員研修を計画的に実施する。

イ 校外での研修などにより、積極的に情報を収集するとともに校内での周知を行う。

(3) 働き方改革の取り組みを行い、職員が生徒と向き合う時間を増やす。

ア 働きやすい職場環境の整備につとめると共に、風通しがよく、働きがいのある組織作りを進める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 3年12月実施分]

学校運営協議会からの意見

府立貝塚南高等学校

診断結果

・複数の質問内容を項目ごとにまとめました。質問内容の詳細は、保護者—12、生徒—20、教員—26 の質問内容となっています。詳細の数値は自己評価等をご確認下さい。

<保護者>			R3	R2
①	①学校に対する意識に関するもの	↑	72%	65%
②	②学習指導に関するもの	↑	57%	55%
③	③生徒指導、児童・生徒理解に関するもの	↑	72%	67%
④	④進路指導に関するもの	↑	68%	62%
⑤	⑤いじめに関するもの	↓	27%	33%
⑥	⑥道徳教育・人権教育に関するもの	↑	53%	51%
⑦	⑦情報提供に関するもの	↑	72%	70%
⑧	⑧学校教育への参画に関するもの	↓	27%	35%

<生徒>			R3	R2
①	①学校に対する意識に関するもの	↑	77%	72%
②	②生徒指導に関するもの	↑	61%	60%
③	③進路指導に関するもの	↑	87%	82%
④	④いじめに関するもの	↑	83%	78%
⑤	⑤教育相談に関するもの	↓	70%	79%
⑥	⑥道徳教育・人権教育に関するもの	↑	89%	86%
⑦	⑦特別活動、学校行事等に関するもの	↑	66%	60%

<教員>			R3	R2
①	①学校組織に関するもの	↓	70%	72%
②	②教育活動の改善に関するもの	↓	73%	78%
③	③生徒指導に関するもの	↓	64%	67%
④	④進路指導に関するもの	↓	82%	83%
⑤	⑤いじめに関するもの	↓	91%	96%
⑥	⑥教育相談に関するもの	↑	85%	76%
⑦	⑦特別活動、学校行事等に関するもの	↑	71%	69%
⑧	⑧保護者への情報提供に関するもの	↓	61%	84%

保護者と生徒については、制限のある環境の中で、工夫と最大限の努力を重ねることで教育活動や様々な行事を行った成果が出ているものと思われる。

保護者からは、感染対策を完全に行って全ての行事を実施していることに対して多くの感謝の言葉をいただいている。特に修学旅行については顕著であった。ただし、学校教育への参画については、PTA活動が十分に行われなかったことと行事等を非公開にしたことによって仕方がないことと思われる。

生徒においては、感染防止のための制限下での生活に慣れてきており、その中で様々な工夫を重ねてできることを精一杯行い学校生活を充実させている。教育相談についての数値が下がっているのは、担任以外に相談できるという項目が下がっていることによるが、これは、まず、担任に相談するという担任との信頼関係ができてきていることの裏返しである。個々の教育相談に対しての満足度は向上している。

教員については、ほとんどが下がっている。休校等の緊急対応が多く発生し、十分な会議や打ち合わせを持つ時間がなく動く場面が多々あった。連携不足を感じている教員は多いが、そんな中でも、十分な対応を見せたので、保護者と生徒の結果が向上している。保護者への情報提供に関して教員の意見では大きく下がっているが、保護者の意見は向上している。保健所等の多忙と大混雑で保護者へ連絡が遅くなったことが数多くあったがこのことは学校としてはいたしかたがないことではあるがむしろクラッシーを使つての連絡は十分効果があったものと思われる。

第1回5月10日実施分

・「主体的・対話的・深い学び」については、昨今のコロナ渦の中で生徒たちの閉塞感ある状況では対話的に学びを深めることは重要だと考えます。学力向上に取り組み、進路実現に向けて今年度も充実した学校経営をお願いします。生徒につけたい力から逆算し、そのつけたい力に応じた授業づくり指導力の向上をお願いしたいと思います。効率的はにぶくて良いと思います。プロセスが大事だと考えています、中学校との連携をお願いしたいと思います。

・令和2年度45期生進路状況について・コロナ渦、入試の制度的変革の中、良く頑張っていると思います。国公立の進学者が増えることを期待いたします。進路決定率、97.4%は高い率世あったと思います。一般入試だけでなく推薦・AO入試などの方法をOBを招きその体験を作つては？又、トップ層は難関校の大学入試をチャレンジする指導をしていただきたい。結果はともかくチャレンジする意欲が足りない気がします。各々の進路目標で生徒自身も努力していると思います。できるだけ希望をヒアリング頂き適格なご指導アドバイスを願います

・新型コロナウイルスの終息が見えない状況で、教育活動に色々な制限があり、ご苦労も多いことと思いますが教職員の皆さま方には、日々健康に留意されますように、よろしく願い申し上げます。新型コロナウイルス感染症への対応について、しばらくの間は、他の事項以上に生徒への周知を図ってもらいたいと思います。創立50周年に向けて、何かインパクトが欲しいですね。学校の学びは当然必要なことですが、子どもから大人になる大切な時期なので、社会人として通用する教養をしっかりと身につけてほしい。

第2回11月19日実施分

・キャンパスの広さと環境が整っていることを再認識したが、校内の整備が進んでいない。またホームページの充実に関して、中学生目線保護者目線から見やすいホームページを作ってもらいたい。良い授業をされていると感じたので授業動画などの配信をしてみてもいいのでは？

授業なども良いのもっと外に配信する機会を設けてほしい。YouTubeなどで広げてくれるプロに頼んでみていいのではないかな。部活動の練習風景なども配信してみてもいいですか？インスタグラムに関しては子どもたちのほうが進んでいるのではないかなと思うが、情報リテラシーには気をつけてください。学校外の人が見たもしくは感じた目線で投稿してみてもいいかな。子どもたちからアイデアを引き出してみれば良いと思います。

授業を見学させてもらって、教室の雰囲気がかわったなと思いました。掲示物なども含め。ホワイトボードがすごくいいですね。昨年度以降の遅刻防止の取り組みには驚きました。こんなに遅刻が減るものかと、これからも一丸となって推し進めていただきたい。委員より：新学習指導要領の導入について、一番苦慮するのが主体的に学びに向かう力の評価のところ、中学校も大変不安に思っているものでこれからも交流を行っていききたい。またコロナの状況で行事を行うのは大変困難で、10月はテスト、修学旅行、体育祭、合唱コンクールと大変でしたが、行事後は授業が活発になり、行事は授業を活性化させるためのものだと思って頑張ってもらいたい。学校の雰囲気が変わってきている春と秋の交通安全で交番前に立つが挨拶をする生徒が増えた。今年は明るい生徒が多いなという印象を受けています。学校のグラウンドの周りに関して、防犯灯の設置と府営住宅の方が暗く、生徒にとっては危ないのではないかな。防犯灯等、防犯に関しての予算や計画についてはどうなっておりますか。警察と協力して、防犯カメラの設置ができれば良い。PTAの活動が殆どできておりませんが、非参加型の活動として検定料の支援、吹奏楽部の支援は来年も続けていききたいと思っておりますが、他にお金を使うことってありますか？非参加型の支援を継続して行っていききたい。資格検定料の支援を行っているの、受験者数と合格者数の報告を行っていただきたい。子どもたちに達成感を与えられるように、合格者数を増やすのではなく受験者数を増やしていただきたい。中学校では生徒会主体で生徒会のキャンペーンに応じて生徒会作成したものを垂らしている。50周年に向けて生徒に作成させてみては？

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2年度値]	自己評価
-------	----------	-------------	--------------	------

<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>(1) 「主体的・対話的・深い学び」を通じた学力向上 ア 「生徒に育成したい資質・能力」、 「めざす授業」の実現に向けて イ 学力向上をめざした取り組み ウ 授業アンケートの効果的活用 エ ICT 機器を活用した授業の研究・実施 オ 自学自習の推進 カ 図書館の活用の推進 キ 特色ある教育課程の編成</p>	<p>(1) ア 「生徒に育成したい資質・能力」、「めざすべき生徒像」を実現する方法について、全教職員で共有し、実践する。 イ 授業規律を高め、授業力向上の取組(研修、相互授業観察、研究授業など)を計画的に実施する。 ウ 授業アンケートを実施し、各教員が結果を分析し、「授業アンケート結果分析シート」を作成し、授業に改善に努める。 エ ICT 機器を活用した学力向上について研究を進め、ICT 機器を活用した研究授業を実施。プロジェクター、タブレット端末等を有効に活用する。 オ 授業を通じて教科・科目の学習への興味・関心を高め、自ら学ぶ姿勢を身につけさせる。 ・生徒の生活実態を把握し、授業以外の学習時間を確保し、授業に臨めるようにする。 ・自習室や教育支援クラウドサービスの活用。 カ 図書室でのPCを用いたクラウドサービスの活用なども取り入れ、授業での活用を推進するとともに、図書委員の活動を活性化し、図書室の活用を推進する。 キ 次期学習指導要領全面実施に向けて、その主旨の理解を図り、生徒の希望進路に対応した教育課程を編成する。</p>	<p>(1) ア 全教員で共有し、実現に向けた環境整備を行う。 イ 教員相互の授業観察を実施、年間延べ150回[167回(1月末)]。研究授業5回[11回]。 ウ 全教員が「授業アンケート結果分析シート」を作成。学校教育自己診断(生徒)の「授業が分かりやすい」の肯定的回答65%以上[68%] エ ICT 機器を活用する教員の割合90%以上[100%] オ 自主的に学習する習慣を高める。基礎学力調査(9月実施分)の1日あたりの学習時間1時間程度以上の割合1年35%以上、2年25%以上[1年30%、2年21%] カ 校内読書感想コンクールの継続実施。図書委員の活動を年間20回以上[24回]実施。図書室の活用時間の増加。 キ 次期学習指導要領に沿った教育課程および評価方法を完成する。</p>	<p>(1) ア 職員会議、などにおいてめざす学校像、を示し目標の共有に努めた。特に、授業観察シートや深い学びの具体例の提示、ICTの効率的な活用を奨励するなどし(主体的・対話的・深い学び)の視点からの授業改善を軸に、目標の達成に向かった。目標達成には授業力の重要性が浸透しつつある。 ・授業アンケート結果、平均ポイントが3.22であった。昨年度3.21より0.01ポイント上昇させた。(○) イ 授業力向上のため職員朝礼にてアナウンスするなどし、教員相互及び外部への授業観察などを奨励した。授業力の向上には大変効果的な取り組みであり今後も発展的に継続させたい ・年間延べ113回 1/末 (△) ・研究授業[16回]12/末 (○) ・貝塚第四中学校で開催された【令和3年度スクール・エンパワメント推進事業：公開授業研修会】へ4名の教員が参加 (○) ウ 授業観察(年間2回)後の授業観察シートによる振り返り、学校長による日常的な授業観察、授業アンケート結果分析シートの任意での作成、等により授業改善に努めた。教職員における授業改善への意識の向上が伺える、今後ますます向上させたい。 ・学校教育自己診断(生徒)の「授業が分かりやすい」の肯定的回答が74%であり、目標を上回った。(○) エ ICT 機器を有効に活用し学習過程の質の向上に努めた。今後もICTを効果的に活用し、個別最適な学びと協同的な学び、一斉学習を併存的に展開し学びの深化を図りたい。 ・学校教育自己診断(生徒)の「視聴覚教材やICTが効果的に活用されている」の肯定的回答が84%であり、昨年度79%を上回った。授業における教員の活用割合は概ね90%以上に達している。今後、研修会などを充実させ活用能力、活用割合の更なる向上に努めたい。(○) オ 授業を通して、主体的に学ぶ意欲の向上に努めた。 ・基礎学力調査の結果、1日あたりの学習時間1時間程度以上の割合が1年31.6%、2年22.1%であり、昨年度よりポイントを上昇させているが、目標には達していない (△) カ 読書感想コンクールの継続、図書委員会活動の活性化、図書館の有効活用など読書活動の活性化に努めた。今後も、「第4次大阪府子ども読書活動推進計画」に沿って推進したい。 ・大阪教育大学の作文コンクールにて最優秀賞を受賞した。 ・読書感想コンクールに479名の生徒が参加 ・図書委員会活動を20回実施。1/末 (○) キ 学力観、評価観の変化への対応に努めた。 ・学力向上委員会、CC委員会の活性化など内外における研修会を充実させ、観点別学習状況の評価を完成させた。 ・進級、卒業規定を刷新した。(○)</p>
-----------------------	---	---	---	--

<p style="text-align: center;">2 夢と希望を持つ生徒育成</p>	<p>(1)生徒の希望する進路の実現 ア 3年間を通して進路指導に取り組む</p> <p>イ 生徒情報の共有</p> <p>ウ 計画的な講習の実施</p> <p>(2)コミュニケーション能力の育成 ア 班活動や発表機会を増やす</p> <p>(3)グローバル人材の育成 ア 海外修学旅行の実施 イ グローバルな視点を身につける</p>	<p>(1)</p> <p>ア 3年間を見通した進路指導計画を作成し、生徒、保護者とも共有する。進路便りの発行など見える化を進める。</p> <p>イ 定期考査、基礎学力調査などの結果から生徒の学力推移を分析し、教育支援クラウドサービスと連携し、学年・教科・分掌間で共有し、進路指導に活かす。</p> <p>ウ 進路目標達成に向け、教科、分掌及び分掌の連携を強化し、進学や就職のための説明会や講習等を計画・実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 各授業、HR、総合的な探究(学習)の時間、学校行事などを通じて、班活動の実施や生徒が発表する機会を増やす。</p> <p>(3)</p> <p>ア 海外修学旅行における事前・事後を含めた活動を通じて、国際感覚を身につける イ 国際交流の機会を模索し、授業や特別活動を通じて、グローバルな視点や姿勢を身につけさせる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア HR等を活用した学年全体での取り組み(外部講師による講演を含む) 1・2年10回以上、3年5回以上[R2 1年5回2年11回3年6回]実施 イ 学校教育自己診断(保護者)の「将来の進路や職業について適切な指導」の肯定的回答 65%以上[67%]。学校教育自己診断(生徒)の「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定的回答 80%以上[82%] ウ 進学講習は全体で 100 回以上[88回(1月末)]を実施。教育支援クラウドサービスによる学習動画、WEBドリル等の活用を加えて、より個人の状況に合わせた指導を進める。</p> <p>(2)</p> <p>ア 学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業がある」の肯定的回答 65%以上[68%] (3)</p> <p>ア 修学旅行実施後の生徒アンケート満足度 90%以上[95%]を維持 イ 学校教育自己診断(生徒)の「授業や行事で国際理解について学ぶ機会がある」の肯定的回答 60%以上[57%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校生活において都度キャリア発達を促し自己実現できるよう努めた。保護者には教育支援クラウドサービスを活用するなど、教育情報の発信・共有に努めた。今後も保護者や関係機関との連携をより深め、すべての生徒の自己実現に向かいたい。 ・HR等を活用した取り組みは1年5回、2年5回、3年11回であり実施回数では1・2年生は目標に達せず、3年生は目標を上回った。学校教育自己診断の結果より内容の充実が伺える。12/末 (○)</p> <p>イ ・学校教育自己診断(保護者)の「将来の進路や職業について適切な指導」における肯定的な回答は69%であり目標を上回った。(○) ・学校教育自己診断(生徒)の「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定的回答は87%であり目標を上回った。(○)</p> <p>ウ ICTを活用するなど、計画的な講習を実施し自己実現に努めた。今後、より多様なニーズに対応できるよう変化と改善に努めたい。 ・入学定員の厳格化の緩和もあるが、近畿大学へ累計7名、関西大学には数年ぶりに1名の合格者が出現した。 ・進学講習は全体で376回(1月末)であった。学習支援クラウドサービスなども積極的に活用した。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア 学力観・評価観の変化に対応し、探究的に学び表現力を向上させる機会の確保に努めた。今後もグローバルな視点からの情報収集や課題発見・解決能力、論理的思考力、探究力を育む機会の確保に努めたい。 ・1学年において、総合的な探究の時間の総括として「貝塚南サミット：プレゼン大会」を開催予定2/10 ・学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業がある」の肯定的回答が78%であり目標を大きく上回った。(◎)</p> <p>(3)</p> <p>ア 命と安全を守ることを最優先し「できないではなくどうすればできるか」を基本理念とし、修学旅行を実施した。今後は宿泊行事の意義を再考し、新しい時代に対応した活動へと進化させたい。 ・修学旅行実施後の生徒アンケート満足度は**%であり・・・ ()</p> <p>イ 子供たちの可能性を最大限に引き出しキャリアにも繋げるため、国際理解教育を推進した。今後もグローバル化や情報化など加速的に進展する社会に対応する資質や能力を育むため発展的に推進したい。 ・1/13日に大阪国際交流財団との連携で講師を派遣いただき3年生HRにおいて異文化についての学ぶ機会を確保した。 ・1/12日にインターナショナルカレッジ香港とのWEB交流を実施した。 ・貝塚市青少年教育課との連携で2022年、7月～8月に、アメリカ、カルバー市より高校生(4～5名)の来校を予定している。 ・学校教育自己診断(生徒)の「授業や行事で国際理解について学ぶ機会がある」の肯定的回答が63%であり目標を上回った(◎)</p>
--	---	--	---	---

府立貝塚南高等学校

<p>3 安全安心で魅力のある学校づくり</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成と支援体制の強化 ア 職員室の効率的な活用による指導力向上</p> <p>イ 登校指導等を通じて、望ましい生活習慣、生活規範の確立に向けた指導を行う。 ウ 教育相談・支援体制の充実</p> <p>エ 互いの違いを認め合い、「共に生きる」精神を育成する。</p> <p>(2) 特別活動を通じ、豊かな高校生活を実現させる ア 部活動入部率の向上と部活動の活性化 イ 学校行事の活性化</p> <p>(3) 保護者との連携および環境の整備 ア 保護者との連携 イ 美化活動等の環境整備 ウ 防犯および防災、新型コロナウイルス対策の推進</p>	<p>(1) ア 職員室を効率的に活用し、日常的に生徒情報の共有を図ると共に、担任・副担、学年団などでの OJT を通じて、教員の指導力向上を図る。 イ 朝の登校指導や朝の SHR などを通じて、遅刻・服装・頭髪指導などの規律指導を行う。</p> <p>ウ SC、SSW、関係機関などの連携を強め、学級診断尺度調査も参考に合理的配慮にそった個に応じた支援体制の充実を図る。</p> <p>エ 人権教育の体系化を図り、生徒へ人権の大切さを学ばせる。 ・いじめ事象の発生・深刻化を防ぎ、いじめを許さない生徒を育成する。</p> <p>(2) ア 新入生対象の部活動紹介や体験入部を通じて、部活動入部率の向上と部活動の活性化を図る。 イ 遠足、体育祭、文化祭などの配置とともに内容について検討し、めざす生徒像の完成に資するものとする。</p> <p>(3) ア 日常的に家庭との連絡を密にし、保護者との連携により、生徒の指導や支援を行う。 イ 環境美化への意識を高める環境整備を行う。 ウ 「防犯及び防災計画」、新型コロナウイルス対策の内容を周知し、危機管理意識を向上する。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断(職員)の「教員間での生徒に関する情報共有」の肯定的回答 90%以上[91%]。生徒指導マニュアルの作成。</p> <p>イ 朝の登校指導や昼休みの指導の継続実施。 年間述べ遅刻回数 3,000 回以下(1 月末) [2,381 回(1 月末)] ウ 学校教育自己診断(生徒)の「悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答 70%以上[77%]。就学支援会議、ケース会議の開催。学級診断尺度調査を実施。 エ 学校教育自己診断(生徒)の「人権の大切さについて学ぶ機会」の肯定的回答 85%以上[86%] 学校教育自己診断(生徒)の「先生はいじめに真剣に対応」の肯定的回答 75%以上[78%]</p> <p>(2) ア 1 年生全員の体験入部を継続。部活動加入率 55%以上[57%]</p> <p>イ 学校教育自己診断(生徒)の「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答 70%以上[75%]。「体育大会は楽しく行えるよう工夫されている」60%以上[59%]。学校教育自己診断(生徒)の「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答 80%以上[77%]。</p> <p>(3) ア 学校教育自己診断(保護者)の「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定的回答 75%以上[77%] イ 学校教育自己診断(生徒)の「校舎内外の環境整備、美化」の肯定的回答 50%以上[51%]。 ウ 生徒用備蓄の整備を継続。 学校教育自己診断(職員)の「事故・事件に迅速・適切に対応」の肯定的回答 85%以上[88%]。緊急連絡方法の確立。</p>	<p>(1) ア (教育、SSW、法的・危機管理)の視点を大切にしながら日常より多面的に生徒理解に努め、職員室を軸とし、情報の共有に努めた。今後もチームで働く力を高めたい。 ・学校教育自己診断(職員)の「教員間での生徒に関する情報共有」の肯定的回答が 88%であり目標に達しなかった (△) ・生徒指導マニュアルを完成させた。(○) イ 生徒を多面的に捉え、社会構成員としての自覚を促し、規範意識の醸成に努めた。支援ニーズのアセスメントとそれに基づくプランニングが充実しつつある。結果、目標を大きく上回った。 ・年間延べ遅刻回数 1430 回 (12/7) と激減した。(◎) ウ SC、SSW、地区の支援教育サポート教員関係機関などと連携し、個に応じた支援体制の充実を努めた。 ・学校教育自己診断(生徒)の「悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答が 82%であり目標を大きく上回った。(◎) ・就学支援会議 4 回、ケース会議を 3 回開催した。 ・学級診断尺度調査を実施した。</p> <p>エ 当事者を招いての講演会の開催、国際理解教育の推進など全教育活動を通して人権感覚の醸成に努めた。また、いじめ防止対策委員会の開催を活性化させると共に、いじめ発生時の適正な組織対応に努めた。今後も全教育活動を通して人権教育を充実させ、共生社会の実現といじめ撲滅に向かいたい。 ・人権作文コンクールにて 3 名の生徒が優秀賞を受賞した。 ・学校教育自己診断(生徒)の「人権の大切さについて学ぶ機会」の肯定的回答が 89%であり目標を上回った。(○) ・学校教育自己診断(生徒)の「先生はいじめに真剣に対応」の肯定的回答が 83%であり目標を上回った。(○)</p> <p>(2) ア 学校生活を充実させるため、部活動の活性化に努めた。今後も国の動きや働き方改革の基本方針を勘案しながら推進したい。 ・体験入部を継続して実施、加えて、優秀な活動を称賛し、学校全体の士気を高めるため、懸垂幕を設置した。 ・部活動加入率が 58.7%であり目標を上回った。(○) イ 学校行事を「実施できない」ではなく「どうしたら実施できるか」を追究することを基本理念とし、活性化に努めた。今後も命と安全を守ることを忘れず、基本理念のもと活性化に努めたい。 ・学校教育自己診断(生徒)の「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答 82%であり目標を大きく上回った。(◎) ・「体育大会は楽しく行えるよう工夫されている」78%であり目標を大きく上回った。(◎) ・学校教育自己診断(生徒)の「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答 80%であり目標に達した。(○)</p> <p>(3) ア 教育情報を積極的に発信するなどし保護者との連携協力を努めた。今後も生徒理解にずれがないようより連携を深め、生徒の自己実現に繋げたい。 ・学校教育自己診断(保護者)の「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定的回答 79%であり目標を上回った。(○) イ 保健部による定期的な点検など、美化意識の醸成に努めた。 ・学校教育自己診断(生徒)の「校舎内外の環境整備、美化」の肯定的回答 59%であり目標を上回った。(○) ウ 新型コロナウイルス感染防止対策をはじめ、防災意識の向上に努めた。今後も関係機関との連携を深め、効率化を図りながらより充実させたい。 ・黙食など、基本的な感染防止対策を校内巡視や校内放送により周知した。 ・貝塚市との連携協力で防犯及び防災計画を作成した。 ・生徒用備蓄品の継続整備とともに、貝塚市との連携で市民用備蓄品の搬入整備に努めた。 ・学習支援クラウドサービスにより緊急連絡方法を確立させた。</p>
--------------------------	--	--	---	--

府立貝塚南高等学校

				<p>・学校教育自己診断(職員)の「事故・事件に迅速・適切に対応」の肯定的回答 70%であり目標に達しなかった。外部機関との連携や問題の理由と原因のアセスメント及び、それに基づく指導、支援のプランニングにスピード感を要する事案が多く生じた。チームで働く力を高めると共に、本年度の経験を糧に、よりスピード感と精度の高い対応力の構築に努めたい。(○)</p>
--	--	--	--	---

府立貝塚南高等学校

<p>4 地域・保護者と連携した学校づくり</p>	<p>(1) 広報活動の活性化 ア 学校 Web ページ、ブログによる情報発信 イ 教育支援クラウドサービスによる情報発信 (2) 地域との連携 ア ボランティア活動の継続発展 イ 地域の学校等との連携 (3) 保護者への進路情報の提供 ア 保護者向け進路説明会の実施 イ 保護者への進路情報の積極的発信</p>	<p>(1) ア 広報委員会が中心となり、オープンスクール等を継続すると共に、学校 Web ページおよびブログの情報更新を活発に行うと共に、内容の充実を図る。 イ メール配信を教育支援クラウドサービスに置き換え、保護者への情報発信を行う。 (2) ア KEYS (貝塚警察署との連携) 等ボランティアの継続実施および内容充実 イ 近隣の保育園での保育体験実習の継続実施部活動等を通じて地域との連携を図る。 (3) ア 保護者向け進路説明会の内容を充実させ、保護者が参加しやすい説明会を企画する。 イ 進路だよりなどの配布とともに、教育支援クラウドサービスによる送信なども活用して、保護者に確実に情報が伝わるようにする。</p>	<p>(1) ア ブログの更新を積極的に行い年間100回以上[98回(1月末)]の更新を維持。 Web ページのアクセス数 30,000 アクセス以上[22,878 アクセス(1月末)]を維持 イ 保護者懇談等を通じて、すべての保護者の登録を確認する。 (2) ア KEYS の活動を実施[0回]。その他のボランティアを推進。 イ 保育体験実習を継続[6回]。部活動等で中学校や地域との連携した活動を維持[中学校7回 地域1回]。 (3) ア 1・2年と3年対象の説明会や大学見学会を実施。保護者の肯定的回答80%以上 イ 学校教育自己診断(保護者)の「進路に関する情報の提供」の肯定的回答60%以上[57%]</p>	<p>(1) ア 教育情報を積極的に発信するなどし、開かれた学校づくりに努めた。学校ホームページをリニューアルするなどし更に活性化に努めたい。 ・校長ブログ49回、スクールライフ・貝南ブログ50回、合計99回の更新であった。1/末 (○) ・WEB へのアクセス数は83569アクセスであった。1/末 (○) ・8/24に新規で学校説明会を開催した。(◎) イ ・保護者の登録が100%であった。 ・学校教育自己診断(保護者)の「教育情報の提供に努力している」の肯定的意見は72%でありR2の70%を上回った。(○) (2) ア 地域連携を充実させ、学校力の向上に努めた。今後も更に発展させ地域に根ざした学校をめざしたい。 ・15名の有志生徒が貝塚警察より委嘱を受け、KEYSの活動を4回実施した(○) 12/末 イ ・近隣保育園での保育体験実習を5回実施し継続させた。また近隣保育園の避難訓練に協力し地域ぐるみで防災意識を醸成させた。 ・貝塚4中での公開授業研究会に参加するなどし、2回の連携を図った。その他、貝南バーディーズスポーツ少年団との地域連携を図った。(○) (3) ア 保護者向け説明会を充実させキャリア教育の充実を努めた。今後もより連携を深め(チーム貝塚南)として学校力を高め、子供たちの自己実現に努めたい。 ・説明会は可能な範囲で開催した。目標には達していないが、保護者の肯定的回答は昨年度67%から69%に上昇させた。(△) イ 進路だよりを配布するなど、教育支援クラウドサービスを有効活用し、保護者への情報発信に努めた。今後も更なる充実を努めたい。 ・学校教育自己診断(保護者)の「進路に関する情報の提供」の肯定的回答は66%であり目標を上回った。(○)</p>
-------------------------------	--	---	---	---

府立貝塚南高等学校

<p style="text-align: center;">5 教職員の資質向上と意識改革</p>	<p>(1) 個々の教員が学校運営に参加する意識をもって業務に当たる。 ア 教員間での情報共有を行い、組織目標の達成を行う。</p> <p>イ ICT 機器を活用し校務の効率化を図る</p> <p>ウ 危機管理体制の教化</p> <p>(2) 教員研修実施、授業見学や外部実施研修への積極的参加 ア ニーズに合った教員研修の実施 イ 他校への授業見学等 イ 校外での研修への参加</p> <p>(3) 働き方改革の取り組み ア 校務の見直し及び効率化</p> <p>イ 働きやすい職場環境整備</p>	<p>(1) ア 運営委員会を中心に、情報共有が円滑に行えるミドルアップダウン型組織とし、ICT の活用を推進する。</p> <p>イ ICT の活用などを通じて、データを蓄積、共有することにより、分掌・学年・教科等の情報を共有し、校務の効率化を図ると共に、校務を組織的かつ継続的に行う。 ウ 個人情報の管理を確実に行うとともに、確実な管理に向けた確認の体制を作る。</p> <p>(2) ア 教員の資質向上をめざした教員研修の実施、経験の少ない教員を中心とした勉強会の実施</p> <p>イ 他校への授業見学や研修会等への積極的参加</p> <p>(3) ア 組織改編を含む個人での業務から組織での業務への返還を進め、効率化とともに継続性を担保し、職員の異動等があっても授業や業務がスムーズに行われるようにする。 イ 職場環境を整備すると共に、お互いがサポートできる職場をめざす。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断(職員)の「校務に関する情報共有ができていない」の肯定的回答[81%]80%以上。その他、教職員の学校運営への参加の意識を高める。 イ 学校教育自己診断(職員)の「ICT 機器や校務処理システムの活用により校務の効率化を図ることができた」の肯定的回答[87%]85%以上を維持 ウ 「個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立している」の肯定的回答を 85% [81%]</p> <p>(2) ア 職員研修 10 回[1 月末 16 回]以上を維持、勉強会 14 回[1 月末 15 回]以上を維持。</p> <p>イ 他校への視察を 2 回以上[1 回]行い、校内での伝達を行う。</p> <p>(3) ア 教員の時間外勤務の月平均時間数 [R2 36.2 時間、12 月末]36 時間以下。学校運営規定の整理を実施。</p> <p>イ ストレスチェック結果における総合健康リスクを前年度より下回る。 [110]</p>	<p>(1) ア ICT と口頭を併存的に活用し、新型コロナウイルス関連情報をはじめ、教育情報の共有を図り、学校力の向上に努めた。今後もより最適な方法で教育情報の提供を図ると共に、チームで働く力を高め組織目標の達成に努めたい。 ・学校教育自己診断(職員)の「校務に関する情報共有ができていない」の肯定的回答が 67%であり目標に達していない。(△) イ ICT を有効活用し、校務の効率化に努めた。今後も GIGA スクールサポーターや外部人材、教員相互における支援体制を充実させ ICT のより効率的な活用に努めたい。 ・学校教育自己診断(職員)の「ICT 機器や校務処理システムの活用により校務の効率化を図ることができた」の肯定的回答が 88%であり目標を上回った。(○) ウ 職員朝礼、職員会議でのアナウンスや、ガイドライン精読の奨励などにより危機管理意識の醸成に努めた。今後もタイムリーな情報提供、注意喚起を行い危機管理の意識の醸成を図り、体制の強化に努めたい。 ・個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立している」の肯定的回答が 79%であり目標に達していない。(△)</p> <p>(2) ア 教職員研修などを充実させ教職員の資質向上に努めた。今後も講師を精選し実効ある教職員研修の実施に努めたい ・職員研修 7 回、勉強会 16 回実施した。教員研修は目標回数には達していないが充実した内容であった。 [1/末] (○) イ リモート授業や観点別学習状況の評価などに関する研修会や授業見学への参加を奨励し、学校力の向上に努めた。 ・近隣中学校で開催された公開授業や近隣府立高校で開催された探究的な学びについての研修会へ教職員が参加した。(○)</p> <p>(3) ア ICT の有効活用、校務分掌や委員会組織のスクラップ&ビルド、内規の見直し、運営規定の整理など「Society5.0」時代に対応できる学校組織の刷新に着手した。今後も分掌の統合など、校務の効率化のため継続して検討したい。 ・学校運営規定(内規集)の整理を完遂させた。(○) ・教員の時間外勤務の月平均時間数が 40 時間 22 分であった。昨年度は 4～5 月は休業中であったので本年度との比較はできない。12/末 (一) イ 互いをリスペクトする温かい職場環境づくりをめざした。 ・有効回答者における総合健康リスクがコロナ禍での不安定さもあり [118]と目標に達していない。特に【職場のサポート】、同僚性やチームで働く力の向上に重点を置き、職場環境の整備に努めたい。(△)</p>
--	--	---	---	--